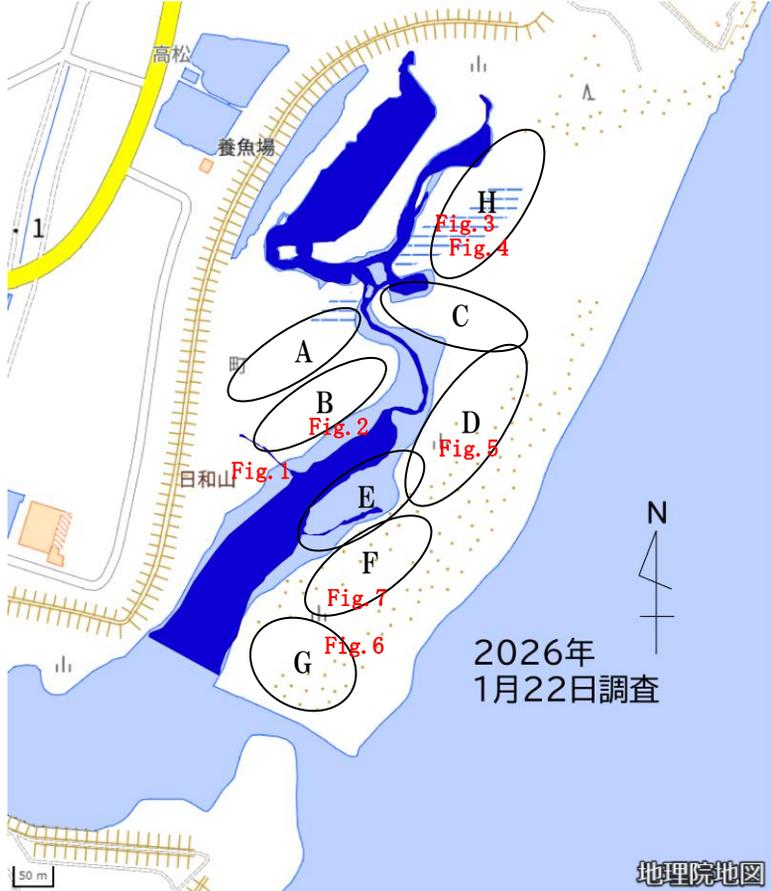


蒲生干潟の植物52

2026年1月22日



↑ Fig.1 定点観測 ↓ Fig.2 水量の少ない潟湖



Fig.2



Fig.3 エリアHのクロマツ



Fig.4 クロマツの1年目の球果



Fig.5 新芽が伸びている



Fig.6 伸び始めの新芽



Fig.7 マツの新たな個体

調査日 2026年1月16日 (金) 15:00~16:00, 1月22日 (木) 13:45~15:15

地形図に示されているように非常に水量の少ない日であった。Fig. 2は通常は潟湖の水底ににあたる範囲であり、ゴカイのなかまや甲殻類のものと見られる無数の巣穴が広がっていた。また餌を求めて歩き回る水鳥の足跡も多く見られた。潟湖北東部のエリアHの二本のクロマツ (Fig. 3)。Fig. 3右側のクロマツは高さ100cmほどであるが、枝の先端にはできてから1年弱ほどと考えられる球果が見られた (Fig. 4)。今年の秋ごろには松かさに成長していくと考えられる。その中央から伸びている部分は、芽鱗で覆われている冬芽である。今後春にかけて新芽が伸び、新たな花をつけていこう。Fig. 5はエリアDで見られた個体の新芽が伸びている様子である。これ以外にも同様に新芽の伸びている個体が複数見られ (Fig. 6)、現在の気温の低い時期でもしっかりと成長を続けている様子が見られる。エリアFでは芽生えたばかりと見られる15cmほどの新たな個体を発見した (Fig. 7)。No. 467では10本のクロマツの分布報告を行っているが、これまでの発見報告のペースから、今後個体数が増えるペースは更に上がっていくことが予想される。

(伊藤勝彦)